



1月9日(火)に、3学期始業式を体育館で行いました。

始業式で、荻野校長が述べた式辞の一部を紹介します。

(前略)

今日は、この休みの間に考えたことを話します。

まずは皆さんに問題を出します。「象を冷蔵庫に入れる3つの手順」を示してください。正月そうそう「そんなばかげたこと無理でしょ。そんなでかいものを、できっこないでしょ。」と考えることを拒否してしまったあなた。脳科学者の茂木健一郎氏も言っています。「分かったかどうかではなく、分かろうとして脳を動かすことが大切です。」と。

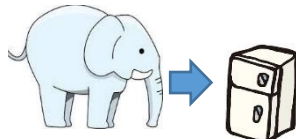
今から12、3年前に、リプトン紅茶のテレビCMにあったこの問。その頃、私はテレビの前で「象を切り刻む」「缶詰」などと物騒なことを考えたことを覚えています。

この問の正解は、とにかく象を冷蔵庫に入ればいいのだから、

①冷蔵庫のドアを開ける

②象を入れる

③冷蔵庫のドアを閉める



「何だ、そんなことかするいよ。」と思う人が多いと思いますが、これまでの学校の学習の主体であった知識を覚えるという角度だけでは思考が行き詰ってしまいます。物事をいろいろな角度から見るという発想が必要だということの教訓になっている問題です。この問題は、紅茶を飲んで頭をリフレッシュさせようということだったらいいけど、果たして当時何人の人が、CMの意味を理解できたのでしょうか。

私は、更に考えました。現実的には5つの手順が良いのではないかと。なぜなら、象が入る冷蔵庫は普通ないでしょ(食品貨物を入れておく大きな倉庫としての冷蔵庫はありますが)。だからまずそれを作ったり、そこに連れていくところから始めなければならないと思うのです。よって、

①今、何をしたいのかを考え、象を入れるという「目標」をはっきり持つ

②象が入るサイズの冷蔵庫を作る(大きな冷蔵庫に連れて行く)

③冷蔵庫のドアを開ける

④象を入れる

⑤冷蔵庫のドアを閉める

ということです。

さて、気が付いた人もいると思いますが、無理やりの展開ですが**今年もやはり皆さんに伝えたいことは、「目標を持って」「夢を持って」ということです。それ**もできるだけ遠くの、しかも大きな目標として**「夢」を持ってほしいのです。**

たとえば、目先の大学等の進学や就職が目標であれば、それを達成するとそこで終了してしまいます。でも、進学や就職は人生においては、あくまでも一つの小さな通過点でしかまいのです。進学したから就職したからその先の人生が安泰と決まるわけではないのです。**怖いのは、「目標」は決めた時点で自らの器をそこまでの器と決めてしまうことが多いということです。小さな器では小さなパン、大きな器では大きなパンが焼けるのです。今この時も、その先の「夢」をしっかり見据えて、まだまだやるべきことはたくさんあるはずだということを認識することが大事です。**

よく「努力しているのになかなか結果が出ずに報われない人」と「結果が出る人」の違いは何かと聞かれることがあります。**私は、「結果が出る人」はただ単に努力を続けるだけでなく、しっかりと「目標」や「夢」を定めている人、それに対して、「結果が出ない人」は明確な「目標」や「夢」を持たずに漫然と努力をしている人だと考えます。**「散歩をして気づいたら富士山に登っていた人はいない」と。同じように歩いていても「目標」がなければそれに到達することはないということです。**毎日、精一杯努力をしている人の結果が出るか出ないかは、「目標」を持っているか否かの問題だと考えます。皆さんは若者です。大きな「目標」「夢」を追いかけてください。**

象の話から話が広がりましたが、象の問には続きがあります。では、「**キリンを冷蔵庫に入れるための4つの手順**」と言われたらどうでしょう。「4つ? さっきより一つ多いのでは?」と思うでしょうが考えてみてください。結果を知りたかったら校長室までどうぞお越しください。ちなみにスマホに聞いてみると答えはありますが。

最後に、短い3学期ですが、学年の集大成の学期です。

皆さんの3学期の活躍に期待します。

